

日本メコン地域経済委員会 訪ベトナム経済ミッション

概要報告

日本メコン地域経済委員会
2023年3月9日

1. 日程:2023年2月15日(水)~2月18日(土)
2. 訪問先:ベトナム(ハノイ、ホーチミン)
3. 参加者:鈴木善久・日本メコン地域経済委員会委員長(伊藤忠商事副会長)
柿原アツ子・日本メコン地域経済委員会共同委員長(川崎重工執行役員マーケティング本部長)
東野博一・日本メコン地域経済委員会共同委員長
(住友商事代表取締役常務執行役員コーポレート部門企画担当役員 CSO・CIO) はじめ23名

4. 概要

日越外交関係樹立50周年、日 ASEAN 友好協力 50 周年の節目の年となる本年、2019 年2月以来4年ぶりに、ベトナムのハノイ、ホーチミンへ経済ミッションを派遣。

主な行事として、チャン・リュー・クアン副首相をはじめ、首相府、外務省、商工省、計画投資省の各副大臣との懇談を実施。その後、クアン副首相ならびに4名の副大臣、山田滝雄駐ベトナム日本大使ご臨席のもと、ベトナム商工会議所(VCCI)と共催で、「持続可能な経済・社会創造に向けた両国のイノベーション共創」をテーマに、「ベトナム・日本経済フォーラム」を開催。本フォーラムは、日越外交関係樹立50周年事業として採択されたことに加え、日 ASEAN 友好協力50周年に向け、日 ASEAN の官民が策定に取り組む「日アセアン経済共創ビジョン」へのインプットの機会となった。

また、山田大使、ベトナム日本商工会議所およびホーチミン日本商工会議所幹部との懇談機会を設け、現地事情を直接伺うとともに、日越大学の訪問、昨今関心が高まるベトナム消費市場の成長性や、サービス分野での若手高度人材活用已成功されている進出日本企業への訪問、日本企業のまちづくりノウハウが活かされたビンズン新都市開発地視察を行った。

5. 主な活動の概要

① チャン・リュー・クアン副首相との懇談 (2/15 ハノイ)



クアン副首相との懇談

鈴木委員長、柿原アツ子共同委員長、東野博一共同委員長は、クアン副首相と懇談を行った。日本側は山田大使、ベトナム側は、ファム・タン・コン ベトナム商工会議所会頭のほか首相府、外務省、商工省、計画投資省の各副大臣が同席した。

委員長、共同委員長より、日本メコン地域経済委員会の活動や本ミッションの紹介、各社のベトナムでの事業活動や、今後の投資計画を伝えた。

クアン副首相は、ミッション団の訪越を歓迎。これまでの日本企業のベトナムにおける多くの経済活動の業績を認識しており、今後も多くの投資計画が続くことを理解され、ベトナム政府の協力で日本企業は利益を上げ、ベトナムにとっては社会の発展に貢献となる原則において協力したいと述べた。

また、同首相は、委員会活動を通じて、ベトナムの魅力をも多くの日本企業が認知し、さらなる経済・投資活動の活発化につながる事への期待を述べ、そのための二国間・多国間の自由貿易協定を活用に触れるとともに、両国の交流が他国の交流のモデルケースになるような協力の姿をともに創り上げたいと述べた。

② ベトナム・日本経済フォーラム (2/15 ハノイ)

ベトナム商工会議所主催、日本メコン地域経済委員会共催にて、日越外交関係樹立50周年、および、日ASEAN 友好協力50周年事業として、クアン副首相、山田大使をはじめとした両国政府要人のご臨席のもと、ベトナム・日本経済フォーラムを開催。ベトナムからコン会頭はじめ115名、日本側から鈴木委員長はじめ45名の計160名が参加した。クアン副首相より基調講演をいただくとともに、「ハイテク農業」、「低炭素グリーン成長」、「スタートアップ」の3つのテーマについて、両国の政府機関、企業関係者が登壇し、各分野における両国の共創についてパネルディスカッション形式で意見交換を行った。

開会挨拶でコン会頭は、「本フォーラムは日越 50 周年の節目の年に重要なイベントであり、今は、両国が培ってきたこれまでの成果を活かし、持続可能な社会を目指す新たな発展段階の時である。両国の経済協力にはまだ様々なポテンシャルがあり、持続的な発展に向け共創するというテーマは、両国の経済協力発展において非常に意義のあるもので、両国ビジネスに利となることを期待する」と述べた。

続いて鈴木委員長は、「この記念すべき年に対面での交流が再開でき、今回のフォーラムがポストコロナを見据え、両国ビジネスの発展と友好関係強化に向けた、新たな出発点となり、両国の経済界の一層の相互理解と、参加者の将来のビジネスにつながる良い機会になることを祈念する」と述べた。



チャン・リユー・クアン
副首相

基調講演でクアン副首相は、本フォーラム開催への祝辞とこれまでの日本からの投資や、コロナ禍におけるベトナムへの支援に対し謝意を述べたほか、次の 50 年に向けて両国間のさらなる協力と成果に期待することとして、①特に基幹産業における投資協力関係のさらなる促進、②自由貿易協定を活かした両国間貿易関係のさらなる拡大、③デジタルプラットフォームにおける戦略的パートナーシップ強化への支援継続をあげた。加えて、両国の経済関係をさらに密にしていける絶好のタイミングであり、日本企業のベトナムでの成功が、ベトナムの経済成長に大きな役割果たし、両国の関係発展に貢献することを期待した。

開会式の終わりに山田大使より祝辞をいただき、その中で、前週に開催された日越首脳テレビ会議にて、外交関係樹立 50 周年を迎えた日越両国関係をさらなる高みに引き上げることが確認されたことに触れ、本フォーラムは、これを受けた初めての経済イベントであり、開催を歓迎する旨と参加者同士の交流を通じて、多岐にわたる両国企業間の経済関係がさらに発展することへの期待が述べられた。

パネルディスカッション・トピック1では、モデレーターにベトナム農業農村開発省の Le Thanh Hoa 氏、講演者に双日ベトナム会社の木ノ下忠宏氏、ベトナム農業組合の Nguyen Thi Viet Ha 氏、ハイズン省の Luong Thi Kiem 氏、Pan Group の Nguyen Anh Tuan 氏を迎え、「ハイテク農業におけるベトナム・日本間の協力」をテーマに討議が行われた。

トピック2では、モデレーターにベトナム商工会議所の Nguyen Tien Huy 氏、講演者にサンテックの青木大海氏、JICA ベトナム事務所の清水暁氏、クアンニン省の Vu Thi Kim Chi 氏、ハイフォン工業団地事務所の Bui Ngoc Hai 氏を迎え、「再生可能エネルギーを含む低炭素グリーン成長におけるベトナム・日本間の協力」をテーマに討議が行われた。

トピック3では、モデレーターにジェトロ・ハノイ事務所の中島丈雄氏、講演者にメドリングの安部一真氏、Abivin の Pham Nam Long 氏、Fastech Asia の Pham Chi Nhu 氏を迎え、「スタートアップにおけるベトナム・日本間の協力」をテーマに討議が行われた。

パネルディスカッションの後、本経済フォーラムが「日アセアン経済共創ビジョン」策定のためのヒアリング機会となっていることから、経済産業省通商政策局アジア大洋州課の福地真美課長より、本フォーラムを含めた日越・日 ASEAN50 周年に関する経産省の取り組みが紹介された。

閉会では、柿原共同委員長とトラン・ティ・ラン・アイン ベトナム商工会議所事務局長より、開催をご支援いただいた方々への謝意とともに、本フォーラムにおける活発な議論が意義深いものとなり、両国政府および経済界の連携深化と新たなビジネス創出につながることへの期待が述べられた。



経済フォーラム VIP 集合写真

③ 懇談会

山田大使はじめ大使館の方々、現地日本商工会議所の正副会頭および視察先企業等との懇談機会を通じ、現地情勢やビジネス事情、文化・風習等の現地情報を伺った。

また、同時期に現地へ視察団を派遣されていた静岡商工会議所国際貿易経済協議会（森下一哉会長（鈴与自動車運送代表取締役社長））と合流し、各地商工会議所との現地進出企業との交流機会を提供した。

- ◆ 山田大使主催夕食懇談会（2/15 ハノイ）
- ◆ ベトナム日本商工会議所との夕食懇談会開催（静岡商工会議所共催 2/16 ハノイ）
- ◆ ホーチミン日本商工会議所との夕食懇談会開催（2/17 ホーチミン）



大使公邸での夕食懇談会

④ 日越大学視察（2/16 ハノイ）

日越大学は2016年9月に日越両国の友好と結束の象徴として開学したベトナム国家大学で、2022年秋より移転を開始したホアラック・ハイテクパーク内に新設中の新キャンパスを訪ねた。

古田元夫学長より、大学の概要説明のほか、大学を取り巻く環境が変化する状況下において、財政基盤強化やカリキュラムが適合するよう取り組まれていることや、今後の展望、日本企業に対する期待などをご説明いただいた。その後、学士および修士課程にて、日本学や経営学、コンピューター・サイエンスなどを学ぶ学生5名によるプレゼンテーションののち、ミッション団と意見交換会を行い、活発な討議が行われた。そのほか、すでに開校している学内施設や授業風景を視察した。



日越大学訪問

⑤ 進出日本企業視察

- ◆ Bellsystem24 Hoasao 社（2/16 ハノイ）
Bellsystem24 のグループ会社で、高い経済成長が見込まれるベトナムにおいて、国内および進出外国企業のコンタクトセンター業務、さらには約200名の日本語対応可能な若手スタッフを雇用し、日本向けオフショアニーズにも対応されている。事業概要についてご説明いただいた後、コールセンター内を視察。その後、日本での就学、就労経験を経て入社したスタッフ4名とミッション団と意見交換を行った。
- ◆ エースコック・ベトナム社（2/17 ホーチミン）
消費市場として有望視されるベトナムにおいて、即席麺の国内市場シェアトップの獲得のみならず、海外輸出も行う同社の生産・販売事業について、ベトナムへ進出した経緯やこれまでの歩みを交えてご説明いただいた。また、工場生産ラインの見学のほか、同社がベトナムで販売している商品の試食を行った。
- ◆ ベカメックス東急社（2/18 ビンズン省）
東急が日本で行うまちづくりの知見や経験を活かし、現地デベロッパー・ベカメックス社と合弁企業を設立し開発を手掛ける、ビンズン新都市の視察を行った。ベカメックス社とベカメックス東急社より、各社の概要紹介や、新都市開発のご説明いただいた後、新都市内の住居スペースや商業エリアなどを視察した。



Bellsystem24 Hoasao 社視察



エースコック・ベトナム社視察



ベカメックス社でのご説明の様子



BECAMEX 東急社視察

以上